

地方創生推進交付金事業

産学官連携エコシステムによる恵みの海「有明海」活性化事業（期間：H29～31）

荒尾干潟底質改善調査事業

（担当 農林水産課）

保護ネット設置

【目的】

廃ゴルフネットをアサリ漁場に被覆することにより、エイによる食害対策、稚貝着底の促進・流出防止、干出による斃死防止などを図る。

【H31の取組】

2年間の調査結果と有識者の助言を基に、他種のネットを設置し、保護効果の比較を行った。



底質改善材

【目的】

長洲町で効果が得られた底質改善材（フルボ酸鉄シリカ資材）を設置し、ヘドロ除去効果等による漁場改善を図る。

【H31の取組】

配置箇所の拡充を行い、改善効果の拡大を図り、効果の継続期間を検証した。



稚貝確保のための採苗試験

【目的】

網袋に砂利等を入れた着底基盤を設置し、アサリ稚貝の着底促進を図る。

【H31の取組】

他の漁場で効果が得られたケアシエルを用いた着底基盤を設置、着底効果を検証した。



焼成貝殻による底質改善材

【目的】

H28に地方創生加速化交付金事業により、海岸に堆積した貝殻を焼成して底生改善材を作成、漁場に散布し、漁場悪化の指標となる硫化物等の増加抑制を図る。

【H31の取組】

散布箇所の継続調査を行い、効果の継続性能を検証した。



干潟ガイド養成・教育旅行プログラム造成

（担当 産業振興課）

干潟ガイド養成

【目的】

荒尾干潟を観光資源として活用するため、干潟ガイドについて、地域情報や生物等の知識を増やし、研修により、おもてなしの技術面のスキルアップを図る。

【H31の取組】

ガイド養成研修の実施と観光ガイドのマニュアル作成を行った。



教育旅行プログラム造成

【目的】

干潟の魅力を発信する新たな体験プログラムを造成することにより、教育旅行誘致の基盤を強化する。

【H31の取組】

H30に地元漁業で使用される「テラー」を用いた体験プログラムを造成。H31はテラーを購入し、一般観光客向けの体験会を実施しつつ、教育旅行誘致の営業活動を行った。



事業終了後の目標

既存の漁場改善事業（覆砂等）と費用対効果等の比較検証を行ったうえで、漁業者（漁協）による自主的な漁場改善事業として取り入れ、その効果に伴うアサリ漁獲量の向上を図る。

事業終了後の目標

研修経験を生かしてガイド能力の向上とプログラムの磨き上げを進めつつ、教育旅行予約獲得数の増加を図る。

KPI（重要業績評価指標）

（荒尾・長洲連携事業のため長洲町実績を含む）

	KPI名称	H28(基準年)	H29	H29増加目標	H29増加実績	H30	H30増加目標	H30増加実績	H31	H31増加目標	H31増加実績
KPI1	漁業出荷額(千円)	708,480	603,324	21,181	△105,156	521,984	33,890	△81,340	538,134	42,363	16,150
KPI2	教育旅行の予約獲得数(件)	2	3	1	1	2	1	△1	0	1	△2
KPI3	水産業における新規就業者数(経営体)	3	0	5	0	0	5	0	7	5	7
KPI4	アサリ漁獲量(t)	21.82	161.11	50.00	139.29	232.98	80.00	71.87	139.05	100.00	△93.93